

## 「Let's健康おきなわ21」



## 胃がん、大腸がんの三つの対策

八重山地区医師会  
医療法人上善会かりゆし病院消化器科医師 田代典一

食べることは私たちの生きる喜びの一つですが、胃や大腸のがんが進行すると食べる機能が落ちてしまいます。がんにはできればかかりたくない、それでもどうしてもがんができるなら早めにつけて負担のかからない治療で治してしまいたいですね。

がん全体の中でも発症数が多い胃がん、大腸がんには、三つの対策があります。

内視鏡による早期発見

早期発見されたがんの内視鏡治療

がん発症リスクを減らす治療

わが国では、内視鏡の技術発達と普及により、人間ドックや企業検診で内視鏡による胃がん検診(胃カメラ)が一般的となりました。自治体が主体となって行う住民検診はこれまでバリウム検査が中心でしたが、現在内視鏡検査も住民検診として推奨されており、市民検診や企業検診、ドックなど機会がありますので、ぜひ胃がん内視鏡検診を受けましょう。

大腸がん検診は、負担の少ない便検査(便潜血反応検査)がありますが、検診で精密検査必要との結果が出て、内視鏡(大腸カメラ)などの精密検査の受診率が高くなく、当院でも便潜血陽性となった方で約3割の方が精密検査を受けていません。欧米では大腸カメラを検診として導入し、大腸がんによる死亡率を低下させた報告があります。

胃がん、大腸がんともに、内視鏡で早期に発見された



がんのうち、基準を満たす病変は、がんであっても内視鏡で根治切除を行うことができます。写真は、胃がんをESDという内視鏡技術で切除した症例です。



胃にピロリ菌という細菌が慢性的に感染している方は、胃がんになりやすく、除菌治療によって胃がんのリスクを減らすことができます。



また大腸がんの多くは、腺腫という良性のポリープから発生するといわれ、大腸カメラを受けてポリープを切除することで大腸がんの発症リスクを減らすことができます。

私たち内視鏡を担当する医師はできるだけつらくない、でも病気は見逃さない内視鏡を心掛け日々研鑽しております。ぜひ胃がん、大腸がん検診を定期的にご受けいただければと思います。

「Let's健康おきなわ21」は、八重山地区健康おきなわ21推進会議の構成機関・団体による「沖縄県の長寿復活に関する記事」を掲載しています。

八重山日報新聞

平成30年5月20日(日)